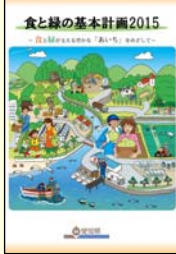


平成 23 年 愛知県農林水産部 10 大ニュース

愛知県農林水産業の振興に向けた各種計画・方針を策定

近年の食と緑を取り巻く情勢の変化に対応するため、本県の食と緑に関する施策の基本的な方針である「食と緑の基本計画2015」を策定しました。平成23年には、この他にも多くの計画や方針を改訂し、今後の本県農林水産業施策の道しるべをつくりました。

<ul style="list-style-type: none"> 愛知県水田農業基本方針 (2月) 協同農業普及事業の実施に関する方針 (3月) 新あいち農山漁村男女共同参画プラン (3月) 愛知県果樹農業振興計画 (3月) 愛知県花き振興指針 (3月) 愛知県野菜生産振興方針 (3月) 第6次愛知県茶業振興計画 (3月) 愛知県酪農・肉用牛生産近代化計画 (3月) 愛知県家畜改良増殖計画 (3月) 	<ul style="list-style-type: none"> 愛知県鶏等改良増殖計画 (3月) 第6次栽培漁業基本計画 (3月) あいち食育いきいきプラン2015 (5月) 愛知県農林水産業の試験研究基本計画2015 (5月) 県産木材利用促進に向けた基本方針 (6月) あいちのみどり2020～第5次愛知県緑化基本計画 (6月) 愛知県農産物環境安全推進マニュアル (7月) 第9次愛知県卸売市場整備計画 (8月) 	
--	--	---

福島第一原子力発電所の放射能事故への対応

放射能事故による本県産農林水産物等への影響を最小限にとどめるとともに、県民の皆様の安全・安心を確保するため、様々な対応を行いました。

- 諸外国向けに輸出される食品等の輸出証明書の発行 (4月～)
- 県産荒茶の放射性物質検査と安全宣言の実施 (6月)
- 県内に流通している稲わらの調査と牛肉の安全宣言の実施 (8月)
- 県内に流通している腐葉土から放射性セシウムが検出され回収を実施 (9月)



知事が先頭に立って愛知県産農林水産物の魅力を発信

愛知県産の優れた農林水産物を県民の皆様に知っていただくため、大村知事が先頭に立ち、名刺を使ったPRや実際に農林水産物を味わうなど様々な取組を行いました。

- 2011フラワードームプレミアムの開催 (3月11日～14日)
- 知事の名刺を使った月替わりの県産農林水産物のPR (4月:バラ、5月:あさり類、6月:大葉、7月:ウナギ、8月:うずら卵、9月:いちじく、10月:ぎんなん、11月:シクラメン、12月:名古屋コーチン)
- あいちの農林水産フェアの開催 (11月10日～15日)



有害獣として捕獲されたイノシシやシカの食材活用が進む

農作物獣害対策で捕獲されたイノシシやシカの肉をジビエとして活用するとともに、県民の皆様のジビエ需要を喚起するための取組をNPOと協働して進めました。

- ふるさと全国県人会まつり2011でのPR (9月10日・11日)
- ジビエ・グルメ・グランプリの開催 (12月3日・4日)
- イノシシやシカの肉を使ったレトルトソースの発売 (10月～)



天皇杯と内閣総理大臣賞のアベック受賞

全国の優れた農林水産業者・団体を表彰する第50回農林水産祭の園芸部門において、本県から、最高の栄誉である天皇杯と内閣総理大臣賞の2賞が選出され、本県の優れた農林水産業の取組が評価されました。(10月12日)

【天皇杯】 出品財 経営(胡蝶蘭) 氏名 松浦 進 住所 愛知県豊橋市	【内閣総理大臣賞】 出品財 経営(キャベツ) 名称 JA愛知みなみ常春部会(部会長 川口哲史) 所在地 愛知県田原市
---	--



鳥インフルエンザの発生

東三河地域で2件の鳥インフルエンザが発生しましたが、速やかに焼却や埋却等によりウィルスの封じ込めを行い、まん延を防ぎました。

- 1月27日、豊橋市の採卵鶏農家で発生。防疫作業に延べ3,282人を動員し、142千羽の殺処分を行い、県所有地へ埋却しました。2月3日に防疫措置を完了しました。
- 2月14日、新城市の種鶏農家で発生。防疫作業に延べ562人を動員し、17千羽の殺処分を行い、焼却・埋却を行いました。2月16日に防疫措置を完了しました。
- 5月11日、鳥インフルエンザの終息宣言。



資源管理・漁業所得補償対策がスタート

水産物の安定供給に欠かせない漁業経営安定のための「資源管理・漁業所得補償対策」が23年度からスタートしました。これは、漁獲サイズの制限や休漁日の設定などの資源管理に取り組む漁業者が、漁業共済の掛金等で優遇措置を受けたり、国と漁業者が資金を積立て、燃油高騰時に積立金から経費を補てんすることで、収入安定やコスト対策を図るものです。



愛知用水の通水から50周年を迎え、各種記念事業を実施

本県の尾張丘陵部から知多半島にかけての一帯に豊かな水を運び、現在の農業生産の基盤を築いた愛知用水が通水から半世紀を迎えました。これを契機に、地域の方々が「愛知用水の恩恵」を再確認し、「先人達の偉業」や「水源地域への感謝と共生」を改めて見つめ直していただくよう、各種の記念事業を展開しました。

- 長野県王滝村での水源地感謝祭 (5月21日)
- メッセージボードの受益リレー (6月～9月)
- 愛知用水通水50周年記念式典 (9月23日)
- 知事が世界銀行のパネル展で皇太子殿下にご進講 (12月13日) 等



地震や洪水などの自然災害から農村地域を守るための防災対策の強化

県下有数の規模を誇る農業用ため池である大井池(額田郡幸田町:貯水量82万m³)では、堤防の嵩上げ・補強工事を本年3月に完了しました。本工事の完了により、豪雨時には大井池で洪水の抑制が図られるほか、ため池の耐震性が向上し、下流河川沿いに広がる約160haの農地や108戸の住宅等が自然災害から守られることとなります。

県では、県民の安心・安全な暮らしを守るため、こうした農業用ため池を活用した防災対策にも積極的に取り組んでいます。



堤防の嵩上げ工事が完了した大井池

治山事業100周年を迎え、記念シンポジウムを開催

はげ山の復旧など、森林の維持・造成を行ってきた本県の治山事業が始まって今年で100周年を迎えました。東日本大震災を契機に災害に対する関心が高まっている中、国際森林年でもあるこの節目の年に、治山事業への理解を深めるための「愛知県治山事業100周年記念シンポジウム」を開催しました。また、パネル展も併催し、これまでの治山事業の歴史や実施状況について、古文書や写真により紹介しました。(9月9日)

